

地域づくり活動の行動計画

長野市民病院

2025年度

地域緩和ケア連携調整員研修（ベーシックコース）

【チームメンバー】

参加施設・所属	氏名 (職種)
長野市民病院 外科	関 仁誌 (医師)
長野市民病院 看護部（緩和ケアチーム）	吉越 美穂 (緩和ケア認定看護師)
長野市民病院 緩和ケア内科	久保 佳子 (医師)

① 選定した地域の課題

地域の大半を担っている2つの緩和ケア病院以外の医療機関と当院の関係性が希薄になっている。

医療圏全体としてみると、地域間格差や当院と他医療機関との関係性にも差があり、一見シームレスな関係を築いているようで、双方向な関係性が十分築けていない。

② どんな地域を目指すのか

どこの病院とも顔の見える関係を築き、患者のやり取りを含めてシームレスな情報交換を行える地域を目指す。

③ 目指す地域を実現するために取り組むべきこと

- 医療圏のすべての医療施設との顔の見える新たな関係性の構築
 - ・ 地域の緩和ケア対応が可能な病院を把握する。
 - ・ 当院の地域における役割や還元できることを地域の医療機関に伝える。
 - ・ 地域の医療機関が当院に望むことや期待を把握する。
 - ・ 医療機関がもつ当院へのニーズと、当院が医療機関に求めるニーズの両方を相互に提供できる手段を模索する。

④ 具体的な行動計画と ⑤ 目標達成時期

1. 医師会等が作成している緩和ケア対応可能医療施設の情報をもとに地域医療機関リストを作成する。
2. 1のリストをもとに当院の地域連携部署と協議し、現状に即した内容にブラッシュアップして当院のリストを完成させる。
3. 2で作成したリストをもとに医療機関を訪問し、各医療機関の緩和ケアに対する実際の対応を把握する。同時に、地域における当院のニーズ（医療機関から当院への要望など）を把握する。
4. 訪問終了後は、訪問内容をもとに地域の緩和ケア対応医療機関のMAPを作成する。MAPは、各医療機関にもフィードバックを行う。
5. 訪問で把握した当院への要望をもとに当院からの医療機関へ発信をする（勉強会の開催や、困った時の相談窓口の開設、情報誌の提供など）
6. 上記内容を定期的に振り返り、さらに関係が向上するための努力を行う

目標達成時期

1-2までは、2025年10月10日現在目標達成済

3と4は、年内に終了予定

5、2026年4月から 発信を始める